

達成度(評価)
A:十分達成できている
B:おおむね達成できている
C:やや不十分である
D:不十分である

学校名	多久市立東原産舎中央校
1 前年度 評価結果の概要	・義務教育学校のよさを生かした連続性・系統性のある教育実践を進め、学力向上にも努めていきたい。 ・児童生徒の交流活動を推進し、低・中・高学年ブロックの連携を強化していきたい。 ・学年経営を充実させることで職員の協働体制の強化・働きやすい職場づくりに努めていきたい。4、5、6、7年生においてはチーム担任制の推進をしていく。
2 学校教育目標	夢に向かって生き生きと輝く児童生徒の育成 ～地域と共に伸びゆく中央校をつくらう～
3 本年度の重点目標	一貫教育システム(4・3・2制)を生かした連続性・系統性のある教育実践(主体的な学びの推進、基礎基本の定着) ・確かな学力の育成 ・児童生徒の交流活動の推進 ・職員の協働体制の強化・働きやすい職場づくり(チーム担任制の推進)

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・主体的な学びの推進を目的とした、9か年の連続性と系統性を意識した授業の実践 ○学力向上を進める中で土台となる基礎的・基本的な力の育成	○「主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善」に取り組み、児童生徒の主体的に学ぶ態度が向上したと答える教員90%以上 ○市内共通漢字テスト合格者(8割以上)を85%にする ○前期課程において、単元テスト「知識・技能」の観点で平均1・2年生は85点以上、3・4年生は82点以上、5・6年生は80点以上にする。 ○後期課程において、「知識・技能」の問題に対する得点率が40%以上の生徒の割合を7・8年生は60%以上、9年生・70%以上にする。	・校内研究を充実させ、教科等部会ごとに、授業づくり及び実践を進める。 ・児童生徒が主体的に学ぶことができる授業の日常実践に取り組む。 ・多久市内の義務教育学校で共通して取り組む「たくトレ」を共通実践する。朝の時間等に基礎学力育成に向けてデジタル百ます計算やデジタルペン英語、漢字の習得などの学習に取り組む。			
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分や家族、友達の命を大切に思う」「友達と仲良く助け合うことができる」とそれぞれ肯定的に回答する児童生徒90%以上	・様々な考えや生き方に触られるように道徳の授業を担当だけでなく学年持ち回りで実施する。 ・児童生徒が強みを見つけやすくなるような教師の日常的な言葉かけをする。							○生活部 ・教育相談
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ見逃しゼロを目指す。 ○いじめ防止取組、事案対応について組織的対応ができていると回答した教員90%以上	・学校生活の中でトラブルになりそうな場合には、事前に言葉かけ等を行いトラブルに発展しないように努める。 ・中央っ子アンケートや生活アンケートを毎月行い、早期に対応したり、各学級で「いじめ見逃しゼロ」を伝えたりする。 ・県教委の「いじめ対応動画」を活用する。							○生活部 ・生徒指導
	◎●児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ◎●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・日常的な言葉かけでよさを認める。 ・年に2回教育相談を実施し、児童生徒の気持ちや悩み感に寄り添った支援や指導を積極的に行う。 ・地域人材を活用し、総合的な学習の時間のキャリア教育を充実させ、将来について明るい見通しをもてるような授業を学年で取り組む。							
●健康・体づくり	○ふるさとを大切にするための教育活動	○ふるさと「多久」のよさに気付いたと感じた児童生徒85%以上	・生活科、社会科、総合的な学習の時間の「多久学」等で多久市のよさを学び、校外にホームページや学校便り発信する。							○学習部 ・総合担当
	●「望ましい生活習慣の形成」	○健康に良い食事をしている児童生徒の割合が85%以上 ○あいさつ、返事、贈物そろえがいつでもできる児童生徒90%以上 ○学校外でも自ら進んで挨拶できると答える児童生徒80%以上	・給食の時間にとどまらず、食育を教育課程の中に位置づけ、年間計画に基づいて食育に関する指導を計画的・継続的に実施する。 ・食育だよりの発行・SNSでの発信。 ・児童・生徒会活動を通して啓発し、意識を高めるように言葉かけをする。 ・学級活動や道徳科等において、挨拶の意義や相手を意識した挨拶について継続的に指導する。							○保健部 ・食育担当 ○生活部 ・生徒指導
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○健やかな体の育成	○体力向上に意欲的に取り組む児童生徒90%以上	・1年～6年でのスポーツチャレンジへの参加促進。 ・7年～9年での外部人材(部活動指導員等)を活用した運動部活動の推進。							○保健部 ・体育主任
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・会議の効率化 ・定時退勤日の設定と推進 ・計画年休取得の推進 ・部活動の地域移行推進 ・職員の相談体制の整備							○管理職 ・副校長、事務長、教頭、主幹
●特別支援教育の充実	○学びやすい、働きやすい環境づくり	○業務改善ができたと感じる教職員80%以上 ○チーム担任制や教科担任制について肯定的な回答をした教員80%以上	・業務改善について、教職員(6部会)で話し合せて整理し、スリム化を図る。 ・学年主任を中心に業務の割り振りや進捗状況を確認し、個々の業務改善につなげる。							○管理職 ・副校長、教頭、主幹
	○特別支援学級在籍児童生徒の進路選択にかかる情報の共有と拡充 ○特別支援学級及び通級学級担任の専門性向上	○特別支援学級児童生徒と保護者への進路指導スキルが向上した教員85%以上 ○専門性が向上した特別支援学級及び通級学級担任90%以上	・特別支援教育Coによる面談や特別支援児童生徒の進路に関する研修会の実施。 ・特別支援教育研修会の実施。 ・月に1回程度、児童生徒の情報を共有する時間を設け、児童生徒理解に努める。							○生活部 ・特別支援Co
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○不登校対策の推進	○不登校児童生徒の情報共有と長期休業前後の対応の充実	○不登校対策、事業対応について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・児童生徒支援会議での情報交換 ・長期休業前後の取組 ・不登校傾向にある児童生徒への様々な対応 ・専門職と連携し、月に1回の不登校対策委員会 ・複数の教師の見取りを学年全体で共有する時間の設定			
○学校・家庭・地域との連携	○義務教育学校・コミュニティスクールとして児童生徒の人的自立を実現 ○学校内での低・中・高学年ブロックの交流を推進する。	○学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育てていると感じている教職員・保護者80%以上 ○異学年交流を積極的に行うことに肯定的な回答した教員80%以上	・コミュニティスクール新聞(仮題)を定期的に発行し、学校・家庭・地域相互の理解促進や活動への啓発を行う。 ・地域の関係団体と連絡を密にし、連携を強化したり、人材バンクの整理を行う。 ・学期に2回以上は、各ブロック集会を開催し、交流を図る。							○企画部 ○特活部 ・異学年交流

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・ ・ ・
----------------	-------------